

# 平成30年度 福岡市立学校教員採用候補者選考試験における選考について (小学校, 中学校, 特別支援学校, 養護教諭, 栄養教諭)

## I 本市の求める教員像

本市の教員採用候補者選考試験では、次の「教員像」を基本として選考を行った。

- 公務員としての自覚と高い倫理観, 教育者としての情熱と強い使命感を持つ人
- 広く豊かな教養と社会性を備え, 教育専門家としての確かな力量を持つ人
- 心身ともに健康で, 子どもへの愛情と豊かな人間性を持つ人

## II 選考基準

### 1 第1次試験の選考

#### (1) 各試験科目の配点

試験科目	教養試験 ※1	教養試験 (一般教養分野のみ) ※2	専門教科	専門教科 (特別支援教育)	論文	面接 ※3
配点	100点	50点	75点	75点	50点	30点

※1 一般選考(免除なし)区分及び特別選考(障がい者)区分における受験者が受験

※2 ※1以外における選考区分の受験者が受験

※3 筆記試験における成績上位者が受験

#### (2) 第1次試験の合格者数

採用区分	合格者数
小学校	採用予定者数の2倍程度
中学校	採用予定者数の3倍程度
特別支援学校(小学部・中学部)	採用予定者数の2倍程度
養護教諭	採用予定者数の3倍程度
栄養教諭	採用予定者数の2倍程度

※合格者数は一般選考と特別選考を合わせた数

#### (3) 選考方法

##### ①筆記試験

##### ○特別選考

ア 各試験科目について、不可とする基準(不可の試験科目が一つでもある場合は不合格となるもの)を設定し、全ての科目で不可とする基準に該当しない者を第1次面接対象者とする。

【不可とする基準：下記の基準点未満、もしくは基準ランクに該当する場合は不可】

試験科目	教養試験 (一般教養分野のみ)	論文
基準点 基準ランク	13点	C・Dランク

※社会人等特別選考の専門教科及び専門教科（特別支援教育）の「不可とする基準」は、一般選考と同様とする。

※障がい者特別選考の各試験科目の「不可とする基準」は、一般選考と同様とする。

※論文試験ランク

ランク	説明
A	優れている
B	標準を上回る
C	論旨，論文構成等がやや不十分である
D	論旨，論文構成等が不十分である

イ 教職大学院修了者特別選考における書類選考（第1次試験前に実施）

- ・ 志願者から提出された教職大学院における研究実績等に基づき，選考を行った。

ウ スポーツ・芸術特別選考における書類選考（第1次試験前に実施）

- ・ 志願者から提出された特定分野における実績（出場した大会のレベルや成績内容など）に基づき，選考を行った。

## ○一般選考

第1次面接対象者予定数から特別選考における第1次面接対象者数を除いた数を一般選考における第1次面接対象者数とする。

ア 教職教養分野免除者の選考

- ・ 試験科目の免除を受けない者を含む一般選考受験者を，「専門教科の得点」(※1)及び「教養試験（一般教養分野）の得点」の合計の高い者から並べ，上位から一般選考における第1次面接対象者数までの順位内にある者のうち，教職教養分野免除者を第1次面接対象者とする。

※1 特別支援学校教諭については「専門教科の得点」を次のように読み替える。

- ・ 小学部受験者  
特別支援教育に関する専門教科の得点及び専門教科(小学校)の得点
- ・ 中学部受験者  
特別支援教育に関する専門教科の得点及び専門教科(各教科)の偏差値

イ 試験科目の免除を受けない者の選考

- ・ 試験科目の免除を受けない者を，「専門教科の得点」(※1)及び「教養試験の得点」の合計の高い者から並べ，上位から，一般選考における第1次面接対象者数からアで対象となった数を除いた数までの順位内にある者を第1次面接対象者とする。

※1 特別支援学校教諭については「専門教科の得点」を次のように読み替える。

- ・小学部受験者  
特別支援教育に関する専門教科の得点及び専門教科(小学校)の得点
- ・中学部受験者  
特別支援教育に関する専門教科の得点及び専門教科(各教科)の偏差値

ウ 試験科目における「不可とする基準」の設定

- ・ 各試験科目について、不可とする基準（不可の試験科目が一つでもある場合は不合格となるもの）を設定する。

【不可とする基準：下記の基準点未満の場合は不可】

試験科目	教養試験	教養試験 (一般教養分野のみ)	専門教科	専門教科 (特別支援教育)
基準点	30点	13点	下表参照	30点

試験科目	専門教科												
	小学校・ 特別支援学校 小学部	中学校・特別支援学校中学部										養護 教諭	栄養 教諭
		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健	技術	家庭	英語		
基準点	24点	23点	22点	27点	26点	24点	18点	21点	23点	24点	20点	33点	27点

②面接試験

「不可とする基準」の設定

- ・ 不可とする基準を設定し、下記基準に該当しない者を合格とする。

試験科目	面接
基準ランク	C

※基準ランク

ランク	説明
A	標準を上回る
B	標準的である
C	標準を下回る

## 2 第2次試験の選考

### (1) 各試験科目の配点

採用区分	面接	実技 (配点は下表参照)
「小学校」, 「特別支援学校小学部」, 「中学校」: 理科, 音楽, 美術, 保体, 技術, 家庭, 英語 「特別支援学校中学部」: 理科, 音楽, 美術, 保体, 技術, 家庭, 英語	90点	※
「中学校」: 国語, 社会, 数学 「特別支援学校中学部」: 国語, 社会, 数学 「養護教諭」, 「栄養教諭」	90点	—

### ※実技配点

試験科目	実技								
	小学校・特別支援学校小学部		中学校・特別支援学校中学部						
	音楽	英会話	理科	音楽	美術	保体	技術	家庭	英語
配点	6点	6点	42点	30点	12点	42点	30点	54点	24点

### (2) 選考方法

- ア 採用区分ごとに面接得点の高い者から順に並べ、得点状況などを勘案しながら、区分ごとに合格者を決定する。
- イ 試験科目における「不可とする基準」の設定
- 面接及び実技について、不可とする基準（不可の試験科目が一つでもある場合は不合格となるもの）を設定する。

【不可とする基準：下記のランクの場合は不可とする】

試験科目	面接	実技
基準ランク	C・D	C

### ※基準ランク（面接）

ランク	説明
A	優れている
B	標準的である
C	標準をやや下回る
D	標準を下回る

### ※基準ランク（実技）

ランク	説明
A	標準を上回る
B	標準的である
C	標準を下回る

### Ⅲ 各試験科目の評定及び問題等の閲覧

#### 1 第1次試験

##### (1) 教養試験・専門教科等の閲覧

問題、解答及び設問ごとの配点は、平成29年11月上旬以降、福岡市情報プラザで閲覧できる。

##### (2) 論文（特別選考）の評定

論文の試験問題は、平成29年11月上旬以降、福岡市情報プラザで閲覧できる。

試験科目	評定の観点
論文	○ 教員としての適性について、意欲、力量、姿勢、論文構成力などの観点から評定する。

##### (3) 面接の評定

試験科目	評定の観点
面接	○ 社会人基礎力、同僚性、コミュニケーション力などの観点から社会人としての資質などを総合的に評定する。

#### 2 第2次試験

##### (1) 面接試験の評定

模擬指導の問題(例)は、平成29年11月上旬以降、福岡市情報プラザで閲覧できる。

試験科目	評定の観点
面接	○ 「本市が求める教員像」の要素を基本とし、主として模擬指導案、学級経営力、生徒指導力、保護者対応力、同僚性、コミュニケーション力などの観点から、教員としての資質、適格性、人物性を総合的に評定する。

##### (2) 実技試験の評定

実技試験の実施要領は、平成29年11月上旬以降、福岡市情報プラザで閲覧できる。

###### ① 小学校・特別支援学校小学部

試験科目	評定の観点
音楽実技	○ 歌唱と伴奏の相互のバランス、技能、曲想のとらえ方などの観点から評定する。
英会話実技	○ ネイティブスピーカーとの自然な対話の継続などの観点から評定する。

② 中学校・特別支援学校中学部

試験科目	評定の観点
理科実技	○ デンプンに対するだ液のはたらきを調べる実験において、「ベネジクト液が特定の物質を検出できること」についての説明及び演示実験を交えた模擬授業を通して、基本的授業力及び安全に留意した実験器具の使用法、実験技能などの観点から評定する。
音楽実技	① 課題曲：「赤とんぼ」（作詞／三木 露風，作曲／山田 耕筰）をピアノ伴奏しながら歌唱することを通して、歌唱と伴奏の相互バランス、技能、表現力、曲想のとらえ方などの観点から評定する。 ② 和楽器演奏：箏を平調子に調弦し、「荒城の月」の前奏4小節を創作し、創作した前奏に続けて同曲の旋律を暗譜で演奏することを通して、箏の調弦法及び演奏力の観点から評定する。
美術実技	○ 彫刻刀を使った木彫の基礎的な木彫りの実技 ・「菱合い彫り」の彫り方を生徒に示すための彫刻の手本を作成することを通して、発想・構想、技能などの観点から評定する。
体育実技	○ 6種目の技能について実技技能の観点から評定する。 ① 球技 ・バレーボール（二人組でのオーバーハンドパス及びアンダーハンドパス，対人レシーブ） ・バスケットボール（制限区域周辺からのドリブルシュート） ② 器械運動（マット運動） 男性：とび込み前転→側方倒立回転1/4ひねり→後転倒立 女性：伸膝前転→側方倒立回転→倒立前転 ③ 陸上運動（走り高跳び） ④ 水泳（50m：平泳ぎ25m～ターン～クロール25m） ⑤ 柔道：前まわり受け身，袈裟固め（2人組で） ⑥ ダンス：現代的なリズムに乗っての自由表現（ステップ・キック・ターン・ポーズを入れる。）
技術実技	○ 材料と加工に関する実技 ・板材を使った木材加工（モニター台製作）を通して、安全に留意しながら知識、技能などの観点から評定する。
家庭実技	○ 衣服の補修 ・衣服の補修に関する知識、技能などについて、安全に留意しながら機材・道具の適切な取り扱いができるかなどの観点から評定する。
英語口述	○ ①，②について、英語の聞き取り・書き取り，発音，文法の正確さ，流暢さ，発話内容の的確さ，意欲，態度などの観点から評定する。 ①リスニング及びディクテーション ②英語による模擬授業を含む口述試験